



1月の園だより



令和2年1月4日
小屋浦みみょう保育園

とんど

小正月の行事で、正月飾りや書き初めを燃やし、これで正月行事が終わります。

その煙にのって年神様が天上に帰っていくとされ、炎が高く上がるとよいことがある、また残り火で焼いたお餅などを食べると、その一年無病息災で過ごせるといわれています。

今年も、小屋浦小学校のグラウンドで、とんどが行われます。ご家族で、お正月の伝統行事にふれてみてはいかがでしょうか。

日 時：令和2年1月13日（月）

14：00 点火

場 所：小屋浦小学校グラウンド

子どもたちに笑顔と元気を

昨年の災害後、小屋浦みみょう保育園には全国からボランティアの方々、そして物心ともに多くのご支援をいただきました。「その後、子どもたちはみんな元気ですか、みんなに会いに行きます」と、

「あそび工房ゆめみ」を主宰する南夢未先生と一緒に、大阪より「つながりあそび歌研究所まっちゃん」の松田美幸先生、静岡より「クラウンやすのすけ」こと、大石康博さんが再度

来園してくださり、歌やふれあい遊び、バルーンアートを楽しんだ子どもたちは、笑顔いっぱいでした。また、森永エンゼル財団とテレビ新広島のアナウンサー衣笠さんには絵本の読み聞かせと、絵本を寄贈していただき皆様の子どもたちを思う気持ち、温かい人との繋がりに元気をもらいました。感謝申し上げます。



子どもたちの成長をともに喜び合う

新年あけましておめでとうございます

令和2年初のお正月を、ご家族おそろいでおだやかに迎えられたことと思います。

いよいよ今年は東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催されます。12月半ばに聖火リレーのルートと聖火ランナーが発表され、坂町も聖火ランナーが走ることに、そして、坂中学校陸上部の2名が聖火ランナーに選ばれるというたいへん喜ばしいニュースが入ってきました。復興に向かってみんなの希望と心をつなぐ聖火リレーになることと今から楽しみにしています。

小屋浦みみょう保育園も、昨年末に坂町による土地の嵩上げ工事を終え、1月10日には起工式、そして、いよいよ新園舎の建設が始まります。秋には新園舎で子どもたちの明るい笑い声が響き渡ることを、保護者や地域の皆様とともに楽しみにしたいと思います。

さて、先月行われた生活発表会ではたくさんの方にお越しいただき、ありがとうございました。舞台と客席が近く手狭だったかと思いますが、緊張した面持ちや見てもらって嬉しい笑顔、遊びが止まりそうになると、ひそひそと教え合う様子、生き生きとした歌声、そして、会場の皆様の温かいまなざしや拍手が加わり、まさに会場が一体となった発表会だったと思います。子どもたちは、日頃から遊びの中で慣れ親しんだ絵本や歌のイメージを広げながら「こうしたら面白いよ」「私はこの役をやりたい」と、せりふや動きを考えたり、身につける物を手作りしながら、保育者や友だちといっしょに遊びを進めていきました。

いろいろなことに挑戦し、友だちと気持ちを

合わせ成し遂げた達成感は、発表会后、子ども同士の繋がりをさらに強くし、声をかけ合っといっしょに何かをやることに意欲的になってきました。中には友だちのことは見たり聞いたりすることが多かった子が、自分を出していくことが楽しくなり、周りによく声をかけ、積極性が見られるようになるなど、大きな行事を経験した子どもたちは、ひとまわり成長したことを感じます。

発表会後のアンケートでは「普段の園での生活がどのようなものかが分かり、安心しました」「子どもたちで助け合う姿が多く見られ、みんなの成長を感じることができました。」「物作りが好きなひまわり組さんが、自分の作品を紹介する場面があり、みんな生き生きとしていて良かったです。」「友だちと一緒に緊張しながらも頑張っている姿に成長を感じ、来年はどんな姿を見せてくれるか、今から待ち遠しいです。」などの感想が寄せられました。発表会をとおして保護者の皆様とともに子どもたちの成長を感じ取り喜び合えたこと、そして何よりこれからの子どもたちの成長が楽しみという言葉をととても嬉しく思いました。「がんばったね、大きくなったね」と、成長した姿や嬉しい気持ちを、子どもたちも実感できるように言葉で伝えていきましょう。いっしょに喜び合うことで自分に対する自信を持ち、自己肯定感の基礎につながっていきます。寒さも厳しくなり、インフルエンザの流行期にもなります。手洗い、うがい、加湿とともに、子どもたちはこまめにお茶の補給をしながら、体調管理に努めてまいります。 園長 舛野 裕子

季節の行事を大切に

昨年末の「お餅つき」は、小屋浦長寿会連合会の皆様のご協力のうえ、小屋浦小学校の一、二年生さんも一緒に、楽しく餅つき行事をすることができました。

災害により、保育園の餅つきの道具は無くなってしまいましたが、臼はたかね荘小屋浦から、他の道具は家庭にあるものを職員が持ち寄り、まさにみんなの力を合わせての餅つきとなりました。発表会后、お父様方には重い臼を運んでいただきありがとうございました。また、もち米はボランティアさんを通じて、佐賀県武雄市の農家さんから無農薬のもち米を送っていただき、皆様の温かいお気持ち、人との輪の広がり、つながりに感謝、感謝の餅つきとなりました。

子どもたちは、前々日からもち米をとぎ、当日は長寿会の方々と一緒に杵を持って餅つきをしたり、かけ声をかけたり、つきたてのお餅を「あったかくて、やわらかい」「気持ちいい」と、可愛い手で丸めていました。しょうゆと海苔をまいて食べたよ」「お餅のピザを作ってもらったよ」と、美味しいお話も聞かせてもらいました。

日本の行事の多くは家族の幸せを願ったり、子どもの心を豊かにするものです。これから、節分、ひなまつりと様々な行事を子どもたちといっしょに楽しんでいきたいと思えます。

